

平成 30 年度協働事業報告会（29 年度事業実施分）  
総評（コメント）（協働事業選考委員会志村委員長）

現在、市民活動や協働の活性化を進めるため、条例を作っている最中である。一度、昨年度 9 月議会で否決されたが、再度、条例制定に向けて頑張っているところである。鎌倉市民の皆さんは本当に長い歴史の中で行政にも勝るような知力・体力・財力・行動力で様々な活動をされており、その活動が市民や鎌倉の為になっている。その大きな力は日本でも有数のレベルである。実はそうした活動を支えるルールが今まで無いままに来てしまっている。今更、ルールが必要かというお声もあるが、市と市民が協力し合えるように条例を作っている。市民と行政がきちんと動かない限り、協働事業は全く成り立たない。

本日、皆さんの報告を拝聴して、改めて協働事業はきちんと取り組んでいかなければならないと感じた。市の堅実だが硬すぎる側面と、市民の柔軟でいきいきとした発想が合わさることで、市だけでは出来ない活動が可能となる。市と市民が協力して取り組んでいくことの意義を改めて感じた。今回のような事業成果の報告会に本来ならもっと沢山の方に出席頂き、まちづくりの為の素晴らしい活動と努力を知らせなければならぬ。本日、市民と行政職員が並んで座って和気あいあいとした雰囲気の中で報告されていたのを見て安心した。事業評価も一致しており、良い連携が出来ているように感じた。

市民に皆さんの活動を知り、協働に希望を持っていただきたい。事業継続される団体もそうでない団体もいらっしゃるだろうが、それぞれの団体の良さや魅力的な個性を活かし、様々な力を活用しながら、今後も鎌倉市や市民の為に活動を続けて頂きたい。